



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 68

PROFILE

1967年佐賀県出身。小学1年生から柔道を始め、中学1年生のときに東京の「講道学舎」に入門。日本体育大学進学後は“平成の三四郎”の異名を取り、世界選手権2階級制覇をはじめ、オリンピックに3度出場。92年のバルセロナ五輪では、71kg級で金メダルを獲得した。2000年の現役引退後は、全日本女子柔道コーチを務める傍ら、町道場「古賀塾」を開き、次世代の子どもの育成を図っている。

現役引退後、私は神奈川県内に町道場「古賀塾」を開き、下は幼稚園から上は60歳近くまで、幅広い年齢層の方々に柔道を教えています。幼いころの私は、ぜんそく持ちで体が弱く、人前で何かをすることが苦手な性格でした。それが、柔道に出会ったことで少しずつ変わることができました。努力の大切さや、何度も立ち上がっていく強さ、いかなる場面でも自分を支えてくれる仲間が存在。柔道から学んだ数多くのことを、柔道を知らない人たちにも伝えたい——。そんな思いから、誰でも気軽に足を運べる町道場を始めたのです。

昨年、ブータンで柔道を指導している青年海外協力隊員から、前触れもなく一通のメールが届きました。その方は、現地の子どもたちが本場の稽古を体験するための日本遠征プロジェクトを企画しており、その応援メッセージをお願いされたのです。もちろん引き受けようと思い返事をしましたが、よくよく話を聞くと、ブータンでは柔道が始まってからまだわずか5年。国内唯一の道

場には畳が無く、マットを敷いて練習しているとのことでした。不意に“自分も何かやりたい”という思いが込み上げ、知り合いの畳店や会社にも声を掛けて、現地に約100枚の畳を贈ることにしました。

誰かの夢を共に実現させたときの喜びは、自分自身の夢がなくなったときとは違う喜びがある。これは、私が指導者になって感じるようになったことです。子どもたちが真新しい畳の上で練習する姿を想像してワクワクしながら、ブータンの柔道の発展を支えることが、いつしか私の夢になっていました。

その後、無事に畳が届いたという連絡を受け、今年2月には実際にブータンの道場を訪れました。子どもたちは最初、緊張のあまり直立不動で顔をこわばらせていましたが、柔道を教えるうちに次第に笑顔に変わりました。その1カ月後、今度は日本の塾生たちともつながりを持ってもらいたいと思い、彼らを古賀塾に呼んで一緒に稽古を行いました。ブータンには畳を掃除する雑巾が

誰かの笑顔を演出したい

柔道家 **古賀稔彦**
KOGA Toshihiko



無いと聞いていたので、最後に、塾生一人一人の名前を書いた雑巾を手渡しました。数日だけの交流でしたが、私にとって彼らは全員大切な教え子です。今後どのように成長していくのかを楽しみに、またブータンの道場を訪ねたいと思っています。

「精力善用」「自他共栄」。人のため、社会のために役立つことをしなさいという、柔道の精神を表した言葉です。世界各地で活動する青年海外協力隊の方々と同じように、私はこの柔道精神を広く伝えていく使命と責任を感じています。臆病だった自分自身を変えてくれた柔道。今度は私が、柔道を通じて多くの人たちの笑顔を演出していきたいと思っています。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索